

総合的な探究の時間におけるeポートフォリオを用いた振り返りの分析 ～資質・能力への気づきに着目して～

佼成学園中学校・高等学校 北野 尚之

実践年度
2025年

実践背景

総合的探究の時間では探究プロセスを通じて、自分が将来社会でどう貢献したいか、どんな人生を送りたいかという「キャリア形成」の視点を持つことが求められている。キャリアの視点は自身の強みや弱みについてのメタ認知が促されることが重要である。しかしながら昨年度の同研究会での実践で授業時の振り返り(小さな振り返り)と学期ごとの振り返り(大きな振り返り)の分析を行った際に、授業時の振り返りを次の行動への予見とつなげることはあっても、学期ごとに振り返りで自身の強みや弱みについての記述が少なく、メタ認知を促すことができていなかったことがわかった(図1)。

アントレを通じて、あなたは何がわかった? 何か変わった? (自己の理解や資質・能力の変容)
アントレを通じて、他人の気持ちや考えと異なる部分(以前より)分かる様になりました。自分が将来何をしたいのかわかると理解してきました。
変わった事といえば、チームをまとめる方法や、モチベーションの維持の方法が変わりました。
今年は個人としてできなかった事を克服しようと思えました。

自己の理解や資質・能力の変容についての記述では具体性が低い。

図1: 2024年学期ごとの振り返り

実践方法

対象

学年・クラス: グローバルコースの高校1年生C組、D組

授業: 総合的探究の時間(アントレプレナーシップ)

学年・クラス: グローバルコースの高校2年生C組、D組

授業: 総合的探究の時間(アントレプレナーシップ)

※アントレプレナーシップはグローバルコースで総合的探究の時間に実施している。身近な社会課題についてチームで解決方法を考え、検証、発表を行っている。高校2年生は1年間同じチームで取り組み、高校1年生は年3回チームを変えている。

実践の期間

2025年4月～12月

実践の内容(昨年度との変更点)

各授業での振り返り(小さな振り返り)

振り返り記述をまとめて読みやすいeポートフォリオ、Qareer(図2)を用いる。

①各授業ごとに振り返りと次の授業の目標を記述する。

②次の授業では前回の授業で立てた目標について活動を行い、振り返ることという学びのサイクルを作り、各授業ごとの振り返り記述を蓄積する。

学期ごとの振り返り(大きな振り返り)

①チームメイトからの良かった点(Good)と改善点(Motto)についての他者評価を受け取る。

②記述例(図3)を見ながら他者評価とこれまで自身が書いた各授業での読み直し、自身の強みや弱みへの気づきを記述する。

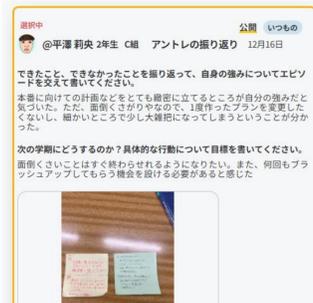


図2: Qareer画面

Q これからどうするのか、次の一手を書いてください。
アイデアの絞り込みがうまくいかなかったのは、話した内容が残らなかったことが理由だと思う。話した内容を見ながらチームメンバーと話をすればよかった。まずはホワイトボードに書きながら進めていきたい。また、停滞しているときにチームのメンバーにもっと話を聞くようにする。(次の一手)

学期ごとの振り返り(大きな振り返り)

Q できたこと、できなかったことを振り返り、自身の強みについてエピソードを交えて書いてください。アイデアをできるだけたくさん出して発散することは得意だし、楽しくできる。(できたこと)しかし、それを文字にまとめたり、絞り込んだりする作業は自分のアイデアが消えていくような気持ちになってしまい苦手だ。(できなかったこと)

例えば1学期のアントレで小学生が金融教育を受けていないことが問題だというプロブレムに対して、金融テック、金融アプリ、出前授業、教員研修、企業訪問という5個のプロダクトアイデアを出した。(定量)

もしかする自分は興味のあるテーマについてリサーチをしたり、発散的に考えてアイデアをだす Open Communicatorsの強みがあるのかもしれない。(自身の強みへの気づき)

他方、アイデアをまとめて絞り込むにはそれが得意な人の力が必要なのかもしれない。(他者との関わり)

図3: 記述例

取得データおよび検証方法

7項目について事前(4月)と事後(12月)の4件法でアンケートをとり、その差分を量的に分析する。対応のあるt検定を行った。

アンケート項目

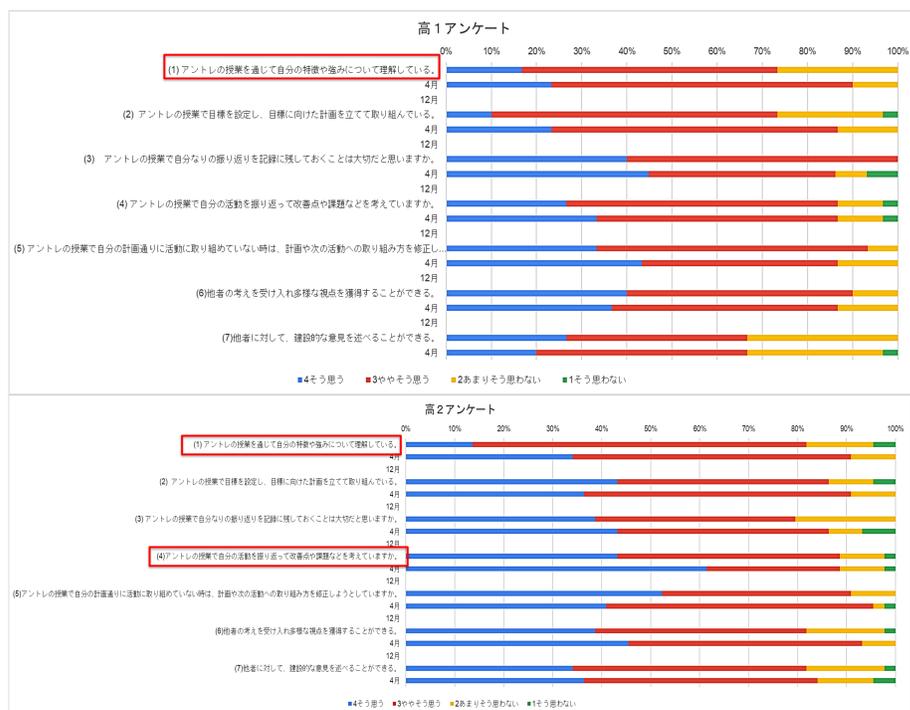
- アントレの授業を通じて自分の特徴や強みについて理解している。
- アントレの授業で目標を設定し、目標に向けた計画を立てて取り組んでいる。
- アントレの授業で自分なりの振り返りを記録に残しておくことは大切だと思いますか。
- アントレの授業で自分の活動を振り返って改善点や課題などを考えていますか。
- アントレの授業で自分の計画通りに活動に取り組めていない時は、計画や次の活動への取り組み方を修正しようとしていますか。
- 他者の考えを受け入れ、多様な視点を獲得することができる。
- 他者に対して、建設的な意見を述べることができる。

結果

項目	高2	高1
(1) アントレの授業を通じて自分の特徴や強みについて理解している。	0.00747	0.050407
(2) アントレの授業で目標を設定し、目標に向けた計画を立てて取り組んでいる。	0.88084	0.428376
(3) アントレの授業で自分なりの振り返りを記録に残しておくことは大切だと思いますか。	0.77184	0.423822
(4) アントレの授業で自分の活動を振り返って改善点や課題などを考えていますか。	0.23195	0.680263
(5) アントレの授業で自分の計画通りに活動に取り組めていない時は、計画や次の活動への取り組み方を修正しようとしていますか。	0.51125	0.813022
(6) 他者の考えを受け入れ多様な視点を獲得することができる。	0.10672	0.601476
(7) 他者に対して、建設的な意見を述べることができる。	0.86413	0.500597

*p<0.05

高校2年生は自分の特徴や強みに対応した項目(1)、高校1年生は目標設定と計画に対応した項目(2)で有意な差が見られた。



高校1年生、2年生ともに自身の特徴や強みに対応した項目(1)で4そう思う、3ややそう思うの割合が大幅に上昇した。特に高校2年生では4そう思うが20%上昇した。また、高校2年生は改善点や課題についての項目(4)で4そう思うが18%上昇した。

考察と今後の課題

今回の実践により生徒が自身の強みや課題についてメタ認知を促すことができたと考えられる。また、高校2年生に変化が大きかったのは1年間同じチームで活動していることも影響したと考える。

他方、各授業で課題を見出して修正したり、計画的に取り組んだりする点はさらに支援が必要であることがわかった。また振り返り記述を残すことに対応した項目(3)が変化が弱かった点からも授業ごとの小さな振り返りを読み直して気づきを得ることはできていないように考えられる。今後は短期的な振り返りを長期的な振り返りにつなげ、短期と長期でのメタ認知を促していく取り組みを行っていきたい。また、今回は量的な分析のみにとどまった。記述の質的な分析によって本校のアントレプレナーシップの活動がどのように生徒のキャリア観を醸成していくのかを明らかにすることが期待される。